●地域とともに●

明日にむかって

発行　社会福祉法人陽光会　編集「明日にむかって」編集委員会　発行日　2013年7月13日
住所　〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1　☎03－3956－1068（陽光保育園）

71号

小学生は感情表現が実に豊かです。怒る、泣く、叫ぶ、いじける、切れる、だからすぐ喧嘩になる。原因は8～9割が、遊びでの勝負絡みの悔しさです。あいキッズがスタートした頃は、口より先に手や足が出たり、泣きながらつかみかかったり、裸足のまま校外へ跳び出したり……。あいキッズに来る子は遊びは得意だけど、友だち関係が苦手な子が意外と多い。指導員にくっついて回るだけの子もいます。友だちづくりは、子どもにとって大変しんどい、でも大切な課題です。／負けるたびに泣いていたA君が、今日はぐっと我慢してゲームを続けられました。B君はモノに八つ当たりしながらだけど、パンチや蹴りは我慢できました。「僕は切れやすいから」と言っていたC君が、友だちに手を出さず泣きわめきながらだけど指導員に訴えてきました。喧嘩別れした友だちに翌日「謝りに行った」と報告してくれたのはDさんです。自分と格闘しながら友だち関係をつくる不器用で一生懸命な姿が、愛おしくてなりません。（Y・S）

お散歩大好き！

陽光保育園では、毎日のように、自然を求めてさまざまな公園へ出かけていきます。子どもたちは、お散歩が大好き。大泣きしていた子どもも一歩外へ出ると、犬を見つけては「ワンワン！」、保育士と感動を共感してご機嫌です。

3、4、5歳児が出かける公園までの道のりは2キロにも及び、歩く力は子どもたちの体づくりの基礎になります。虫を見つけ、風を感じ、五感をフル回転させて遊ぶことを通して、人間らしい豊かな感性を磨きます。陽光保育園では、年齢、目的によって公園を選びます。四季によってさまざまな表情を見せてくれる公園。子どもたちがお気に入りの公園のいくつかをご紹介します。

城北中央公園

広いグランド、土の斜面、大きな木々、都内でも有数の自然がいっぱいの広々とした公園です。子どもたちは、グランドでは走り回って遊び、その周囲では、虫や木の実を見つけたり、どんぐりをたくさん拾ったり、はっぱの布団で転げまわって遊びます。木登りができるのも、この公園ならではです。乳児は、土の斜面を「よいしょ、よいしょ」とのぼったり、「おっとっとっとー！」と抵抗を感じながら下って喜び、友だちと笑いあいます。思いきり体を使って遊ぶことで、子どもたちはしっかりした体をつくっていきます。

茂呂山公園・柿の木広場

茂呂山公園は、公園全体が小さな山のようになっています。上の広場には、土の斜面からも丸太の階段からも上っていけます。斜面には笹の葉やさまざまな植物が茂り、秋になると、落ち葉がいっぱいになるので、少々転んでも痛くありません。子どもたちは斜面を転がるように下りてきて、下で待ち構えている大人の胸に飛び込んでくる遊びを何度も繰り返して楽しみます。たくさんのしいの実を拾うのも秋のお楽しみです。

道路を挟んで茂呂山公園の向かいにある柿の木広場では、子どもたちは滑車のついたターザンロープが大好きで、何度も順番に繰り返して遊びます。春になると、つめ草が咲くので、花の冠や、腕時計をつくって遊びます。

茂呂山公園の土の斜面は、子どもたちにとって絶好の遊び場。登っては駆け下りる4歳児

東板橋公園・こども動物園

小動物と触れ合えるとっても楽しい公園です。あひる、亀、うさぎ、モルモット、ポニー、ヤギ、小鳥がいます。特に充実しているのがヤギのコーナーです。子どもたちは、放し飼いにされている親子のヤギに触ってかわいがります。時々後をついてきたり、服を引っ張られたりすることもありますが、そんなことも生き物を思いやる経験になります。誕生したばかりの赤ちゃんヤギに会えて、大興奮したこともありました。モルモットを抱くことができる時間もあって、どの子もとても優しい顔になります。

モルモットにさわってドキドキ。こども動物園で、2歳児

板橋交通公園

陽光保育園でとてもよく利用する公園です。比較的広い公園で、乳児向けの公園と幼児向けの公園がつながっています。乳児向けには、小さな滑り台や大きな砂場、スプリングのついた遊具があり、ゆったり遊べます。幼児向けには、大きなジャングルジムや大型の滑り台があります。自転車乗り場もあるので、たくさんの子どもたちがここで自転車の練習をし、乗りこなせるようになりました。

夏には「じゃぶじゃぶ池」が開放され、水遊びや、たくさん泳いで楽しみます。身も心も解放して遊べるこの公園は、子どもたちにとってなくてはならない場所です。

ごあんない

■陽光保育園
●運動会
日時　10月13日(日)　9時～14時頃
会場　板橋第十小学校校庭
＊雨天の場合は板橋第十小体育館
●冬のバザー
日時　12月1日(日)　10時～14時
会場　陽光保育園

■北町保育園
●運動会
日時　10月12日(土)　9時15分～
会場　北町保育園園庭
＊雨天の場合は10月18日(金)

■陽光会後援会
●夏の交流会
日時　7月28日(日)
場所　三浦海岸
●納涼会
日時　8月23日(金)　19時～21時
会場　陽光保育園ホール
●秋の交流会（日時・場所とも予定）
日時　10月27日(日)
場所　巾着田

社会福祉法人陽光会◎近況

陽光保育園

今年も親子バス遠足へ

毎年5月、4、5歳児は親子バス遠足に行きます。父母と一緒に行けることが、子どもたちにはとても楽しみです。今年は、こども動物自然公園に行きました。アスレチックで遊ぶ子どもたちを保護者が見守りつつ、そばにいる子を手助けしたり、声をかけたり、子ども同士の関わりを知って、親同士が交流する場にもなります。そしてお昼ご飯の一品持ち寄りも楽しみのひとつ。それぞれの家庭の味をみんなで楽しみました。

お母さんが見守るなかでアスレチック

板十小あいキッズ

梅雨でも元気！

学校の運動会も終わり、ホッと一息の学童クラブ。梅雨に入って外で遊べない日には、さまざまな製作をして楽しんでいます。母の日に向けてはアイロンビーズでコースターを作りました。父の日に向けては、市販のクリップにフェルトで作ったお父さんの顔やハート形をつけたり、シールなどを使って自分なりにデコレーションしました。他にも粘土や折り紙、セロファンを使ったサングラス作りなども楽しんでいます。

ビーズや粘土に夢中

北町保育園

5歳児同士、リズム交流

5月21日、陽光保育園のかもしか組と北町保育園のきりん組の5歳児同士、北町保育園でリズム交流をしました。「縄跳び」を見せ合ったり、「なべなべ」や「うみだ」で大きな輪になってリズムをしたり、「じゃんけん列車」ですっかり仲よくなった子どもたち。限りある時間に、最後は名残惜しい様子で、「またあそぼうね」「またね」と、どちらからともなく握手をして再会の約束をしました。

みんなで輪になってリズム

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2013年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所　陽光保育園（板橋区大谷口上町23-1）☎3956-1068
時間　午前9時30分～11時（赤ちゃんは10時30分まで）
対象　0歳児～就学前のお子さんと保護者

＊参加ご希望の方は実施予定日の3日前までにご電話ください。
＊動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
＊お天気により変更する場合もあります。
＊0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2013年度◆今後の予定

7月17日(水)	8月20日(火)	9月10日(火)
10月30日(水)	11月26日(火)	12月10日(火)
1月21日(火)	2月25日(火)	3月　4日(火)

＊　9月：看護師が「健康」について相談を受けます。
＊10月：栄養士が「食」について相談を受けます。

保育情勢

子ども・子育て支援新制度に求めること

昨年夏、消費税増税法とセットで成立した関連3法による子ども・子育て支援新制度（以下、新制度）は、とても複雑でわかりにくいものです。その本格実施をめざし、政府は実施主体である市区町村に、2014年10月から具体的作業に入るように求めています。そのためには、市区町村は14年夏までに新制度に関わるさまざまな基準や保育料などを条例で定め、住民に周知しなければなりません。しかし、肝心の国の方針は内閣府に設置された「子ども・子育て会議」で検討が始まったばかりです。地方版「子ども・子育て会議」も設置はするものの、新制度の全容がつかめず準備が進められない状態です。

すべての子どもが等しく保育を受ける権利を保障するためには、新制度の問題点を把握し、是正を求めていくことが今こそ必要です。

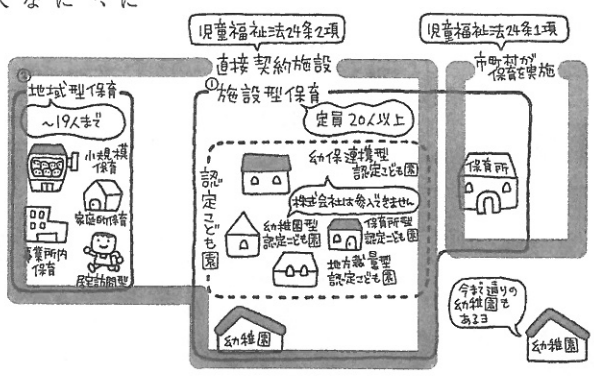
求めること 1 職員配置や面積基準の統一を

新制度では、保育を行う施設・事業が複雑で多岐にわたります。

①**施設型保育**（定員20人以上）：保育所、幼稚園、認定こども園（幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型）

②**地域型保育**（定員19人まで）：小規模保育、家庭的保育、事業所内保育、居宅訪問型保育

これらは施設・事業によって職員の配置や保育室の面積等の基準が別々につくられることにより、保育環境や保育条件に格差が生じることになります。どの施設に入っても、少なくとも現行の保育所の最低基準以上の条件が保障されるように、各施設・事業の基準を統一することを求めます。



新制度の枠に入らない・入れない施設もあるんだ。

イラスト：『ここが問題　子ども・子育て支援新制度』より

求めること 2 子どもの発達・生活を保障する保育時間に

新制度では、市区町村に申請して、利用手続きの前に保育の必要性・必要量の認定を受ける仕組みになります。保護者の就労状況をもとに認定を受け、短時間と長時間に区分されることになりそうですが、具体的にはまだ何も明らかにされていません。子どもの生活や発達を保障するという視点から、認定時間は、現状の保育時間の基本である8時間以上にすべきであり、申請手続きは簡素化することを求めます。

求めること 3 すべての子どもの保育に市区町村は責任をもって

新制度では、施設・事業によって市区町村の責任が大きく異なる仕組みになります。保育所は、これまでどおり、市区町村の責任で保育が実施されます（児童福祉法24条1項）。保護者は市区町村に入所を申し込み、市区町村の責任で入所先を決定、保育が提供されます。一方、保育所以外の施設型保育事業や地域型保育事業については、市区町村は直接的な責任を負いません（同24条2項）。保育が利用できるかどうかは事業者と利用者との契約（直接契約）によって決まります。

こうした公的責任の格差は、子どもの保育の平等という原則から大きく外れます。保育所を利用する子どもも、それ以外の施設を利用する子どもも、同じように保育を受ける権利が保障され、安心・安全な環境で過ごすことができるよう、保育の実施責任を市区町村が負うことを求めます。

また、希望しても保育所に入れなかった待機児童の数を明らかにして、市区町村の子ども・子育て支援事業計画に、保育所の整備目標を明記するように求めます。

求めること 4 公費は保育のためだけに使う制度に

新制度では、施設への補助金が利用者への補助金に変わり、施設等を利用した保護者個人に支払われることになります。しかし実際は、利用者補助金を保護者に代わって施設が代理受領する複雑な仕組みです。このような補助金を「給付」といいます（私立保育園の場合は施設に委託費として支払われますが、額は未定です）。

この「給付」は、保護者への補助という性格のため、たとえ公費といえども施設に渡ってしまえば、その後の使い道に制限をかけることは困難で、保育以外の目的に流用される可能性もあり、すなわち保育の質の低下につながる危険性があります。公費はあくまで、子どもたちの保育環境の整備、保育水準の向上に使われるように、制限することを求めます。さらに、職員の処遇や施設整備費等、使い道を限定した施設への補助を新たに設けるよう求めます。

（北町保育園園長　高田礼子）

※参考資料『ここが問題　子ども・子育て支援新制度』（全国保育団体連絡会編集・発行）

ようこうほいくえんの 一時保育

◆こんなときご利用ください

- 保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。また保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時。
- 保護者の子育て不安・リフレッシュなど。
- 育児相談、健康診断等で、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき。

◆利用日・利用時間など

- 月曜日～金曜日の9時～17時（土・日・祝日・年末年始休）
- 1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」ご利用の方は生後10か月から。
- 一日1時間～8時間。ご希望の時間帯で利用できます。

◆お申し込み・お問合せ

- 直接、陽光保育園へ。（☎3956－1068、受付時間10時～17時）
- 緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
- 事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます（親子でおいでください）。
- 利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問い合せください。

続 子どもの世界

～北町保育園～

2歳児 ── お散歩で

散歩にいった先でいろいろな動物や虫を見つけました。

Sくん「ねえねえ、あおむしはどうやってうごくの？」

保育士「ニョロニョロかなー？」

Sくん「ちがうよ！　モニョモニョだよ！」

あおむしはモニョモニョだそうです（笑）

1歳児 ── シャワー中に

Gくん「なんで、チンチンないの?」

しばらく考えてから……、Kちゃん「おねえさんだから」

給食のとき思い出したようにGくんがつぶやきました。「パパとお兄ちゃんにある、ママにはない?!」ママはお姉さんではないので、きっと疑問に思ったのでしょうね。

シリーズ 戦争と私

「国益」という亡霊にだまされるな

津田 ノリ子

1945年8月13日朝、突然の避難命令で、私たち7名（母と14歳の兄を筆頭に2歳の弟まで）は朝鮮の北部、満州（現在の中国東北部）との国境に近い羅南の町を発った。朝鮮殖産銀行の行員であった父は、残務整理と警備のため残留することになった。私たちは20㎞ほど南下したところにある朱乙の支店をめざした。背中のリュックには私の一番大事な、3歳の七五三で着た緋色の二部式の着物が入っていた。

はじめはルンルン。しかし、歩いても歩いても目的地は遠い。埃っぽい8月の砂利道を大きな荷物を背負った避難民たちがひたすら先を急ぐ。履きなれない靴に足は豆だらけ。私はヒィーヒィー泣く。「もうすぐだから我慢しなさい」と母の叱声。とうとう私は地べたに座り込み、狂ったように泣き叫ぶ。「言うことを聞けないのなら、置いていきます！」母たちの姿が遠くなりかけたそのとき、沿道から飛び出したオモニが私を小脇に抱え、韋駄天走りで母に追いつき、「なぜ子どもを置いていく！」と助け舟を出してくれた。そして橋の下で野宿。この後、兄の話では城津という町で父と合流。やっと京城行きの汽車に乗れたが、南下するにつれ線路沿いに「朝鮮独立万歳！」を叫ぶ朝鮮人の集団が目立つようになった。

8月17日京城着。排日運動はさらに強まり治安は悪化。9月末にようやく釜山に到着。女学校の講堂で引き揚げの順番待ちの3週間を過ごす。興安丸への乗船が決まって、持ち物と身体検査を受けた。私の記憶では、この日は肌寒く小雨が降っていた。母について検査室に入ったとたん、連合軍の兵士たちとオモニたちの険しい眼差しに震え上がった。子どもだろうと容赦ない。裸にされ、リュックの中の一番大事なあの緋色の二部式の着物も消えた。あのとき、声もなく流した涙を私は忘れない。

戦後、混乱と困窮の試練の中で、大人たちは「戦争さえなければ」と嘆きながらも戦争への反省を口にしていた。戦争のもたらすものは悲惨以外の何ものでもない。「国益」という亡霊に導かれて、行き着く先は荒涼とした荒野ばかりだ。70歳を超えた私の切実な声です。

（板橋区在住）

※編集部注：地名はいずれも当時のもの

お父さんの出番です!!

絢香との闘い

我が家ではママが看護師で月2回の夜勤があります。そのときはパパ、お姉ちゃん、絢香（あやか）の三人で夕飯を食べ、お風呂に入り、お布団に入ります。絢香が生まれるまでお姉ちゃんの萌香とパパの二人でした。萌香はパパっ子だったのか、ママが居ないことで泣くことや寂しいと困らせるようなことは一度もなく、楽なものでした。

絢香と三人になった当初は、「楽勝、楽勝」と思っていましたが……、夕飯を食べ、お風呂が終わり、いざ、寝かしつけとなったときに絢香の「ママ……」が始まります。そう、絢香は完全にママっ子だったのです。

そこからが長いこと長いこと……。私はテレビの話、保育園の話、あの手この手を駆使してごまかしたり、眠くなるように仕向けようとしますが、なかなか乗ってくれず、「ママは？　まだ帰ってこない?」と絢香は泣きべそです。長いときは一時間以上こんな感じで、最後は「いつまでも起きているとずっとママは帰ってこないからねっ!!」と怒って、ようやく寝かしつけ完了です。私は前日の勤務で一睡もしていないこともあり、絢香に負けて寝てしまうこともありました。

そんな絢香が、気づいたらかもしか組（5歳児クラス）となりました。めだか組（1歳児）、あひる組（2歳児）のころに比べたら今は成長してくれて、一時間以上だったのが五〇分くらいにはなったかな（苦笑）。ママの夜勤のときに寝かしつける大役もあと少しかなと思うと、そのときしんどかったことも、今となっては貴重な育児のいい思い出かなぁと、ちょこっとだけ思えます。

追記

絢香は基本的に、ほんとうになかなか寝ない子で、いまだに就寝時にはママと毎日バトルしています……。小学生になればバトルしないで寝てくれるようになるのかなぁ。父と母はただただ祈るばかりです……。

（陽光保育園5歳児クラス・絢香の父　山内　康平）